

株枯病抵抗性台木を利用した イチジクの樹体ジョイント仕立て



土壌伝染性のイチジク株枯病は防除が困難で、感染による樹勢の低下や樹の枯死が問題となっています。対策の一つとして、病気にかかりにくい品種を台木とした接ぎ木樹による栽培が導入されつつあります。この技術を導入する際には、改植による未収益期間を短縮し、早期成園化を可能にする新たな手法が求められています。

このため、農業総合試験場では、株枯病抵抗性台木を利用した接ぎ木樹による栽培に適した樹体ジョイント仕立ての技術を開発しました。樹体ジョイント仕立ては、隣接する樹の主枝を連結して直線状の集合樹にする新しい栽培法です。この技術により、早期成園化に加え栽培管理の省力化が可能となります。

農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業（旧：新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業）
（2009～2013年度）による研究成果です。



イチジク株枯病とその対策

1 イチジク株枯病

- ・土壌伝染性の病害で、薬剤による防除が難しい。
- ・主要品種「柵井ドーフィン」などは、感染により樹が枯死する。

2 台木を用いたイチジク株枯病対策

- ・抵抗性が強い品種を台木にすると、病気にかかりにくくなる。
- ・台木は長い方が発病しにくい。

樹体ジョイント仕立てのイチジクへの導入

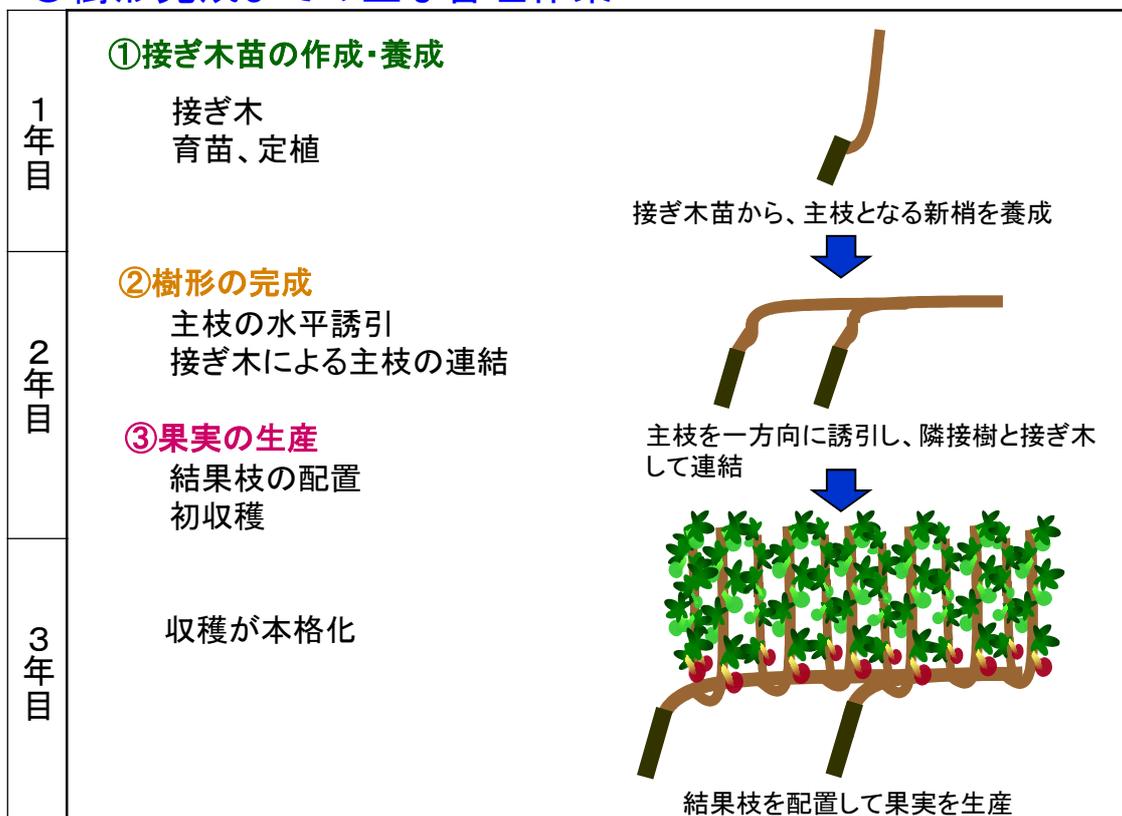
1 樹体ジョイント仕立て

- ・主枝を片側一方向へ延長し、先端部を隣接樹の主幹基部に接ぎ木で連結する。
- ・複数樹がつながり、直線状の集合樹となる。

2 イチジクに適した技術の開発

- ・イチジク株枯病対策として、台木の利用と組み合わせる。
- ・改植後の未収益期間が短縮でき、早期成園化が可能となる。

○樹形完成までの主な管理作業



イチジク樹体ジョイント仕立て技術の特徴

1 イチジク株枯病対策に有効

- ・主枝を一方に延長するので、接ぎ木苗を斜めに植えることができる。
- ・接ぎ木苗を斜めに植えることで、長い台木が利用でき、病気にかかりにくくなる。



2 樹勢が安定しやすい

- ・主枝の基部と先端部がつながるため、結果枝の生育が均一化しやすい。



樹体ジョイント仕立て



一文字整枝(従来の整枝)

3 樹形の完成が早く、果実収量が安定する

- ・接ぎ木苗から養成した新梢を翌年主枝にするため、育苗期間が短縮できる。
- ・樹形完成により、収量は約3t/10aと安定する。
- ・接ぎ木苗から長い苗木を養成すれば、翌年に主枝を連結することが可能。

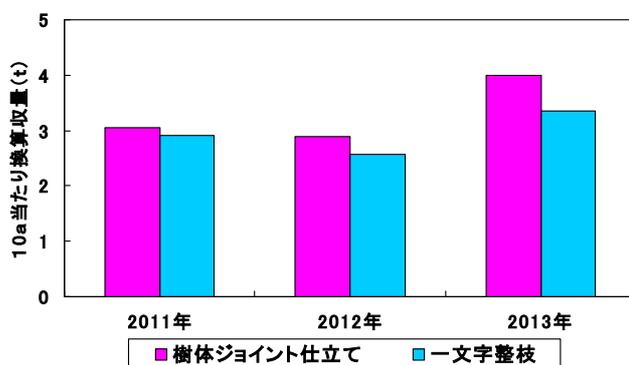


図 仕立て方の違いが果実収量に及ぼす影響(2011-2013)

樹体ジョイント仕立て: 2009年に接ぎ木苗を作成・定植。2011年4月に株間1.2mで6樹を連結した。

一文字整枝: 2009年に接ぎ木苗を作成・定植。2012年に間伐を実施し、株間6mとした。

4 作業がしやすい

- ・苗木を斜めに植えるため、台木が長くても主枝高は40cm程度に低くできる。
- ・結果枝は、従来の一文字整枝に準じて通路に沿って配置される。
- ・一文字整枝と同様に、作業性がよい。



樹体ジョイント仕立て

一文字整枝

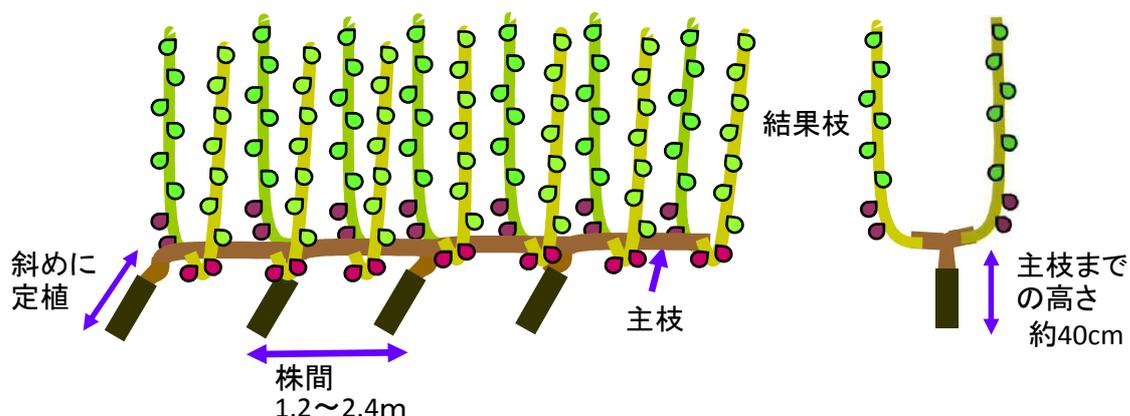
樹形の特徴

1 栽植様式

- ・株間1.2~2.4m、樹列間隔2.2~2.4mを目安とする。
- ・苗木は斜めに定植する。

2 枝の配置

- ・主枝は高さ約40cmで水平誘引し、隣接樹と連結する。
- ・結果枝は主枝の両側に配置し、間隔は片側40~50cmとする。



3 留意点

- ・株間が狭いと樹勢が強くなりやすい。
- ・苗木は病虫害の被害のない健全なものを使用する。

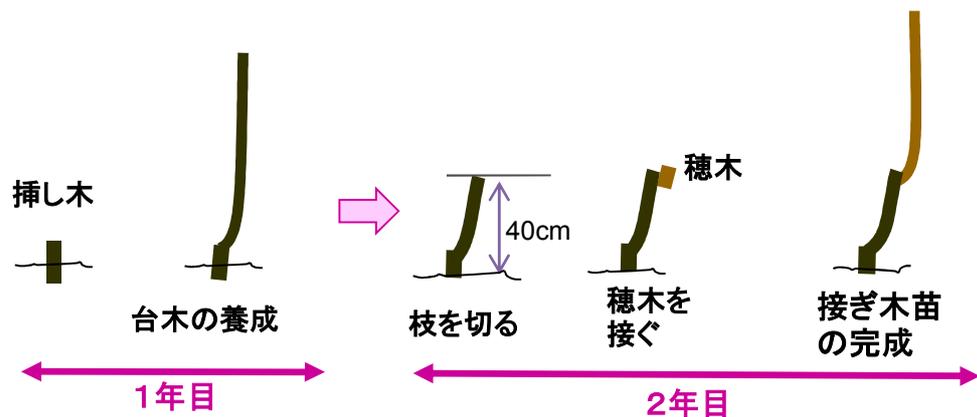
苗の養成から樹形の完成までの手順

接ぎ木苗の作成

1 通常の作成方法

1年目 台木となる品種を4月に挿し木して養成する。

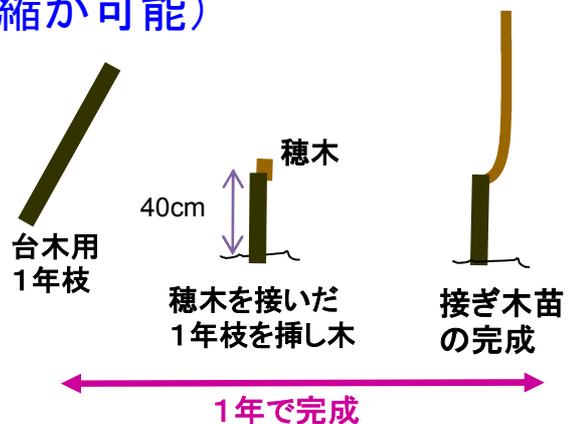
2年目 4月に台木を40cmで切り、穂木品種を接いで主枝となる新梢を養成する。



2 接ぎ挿し法(育苗期間の短縮が可能)

(1) 接ぎ挿し法の特徴

- ・接ぎ木と挿し木を同時に行い、主枝となる新梢を養成する。
- ・育苗期間を1年に短縮できる。



(2) 材料

台木 「イスキアブラック」(長さ40cm)

穂木 「榊井ドーフィン」 1芽で調整

挿し床 ロックウールキューブ(10cm角)

* 台木と穂木に利用する枝は、1年枝を冷蔵保存しておく。



穂木

(3) 処理時期 4月上中旬(発芽期頃)



(4) 方法

- ・長さを調整した台木に穂木を切り接ぎする。
- ・乾燥防止に、接ぎ木部に接ぎ木テープを巻く。
- ・ロックウールキューブに挿し木して管理する。

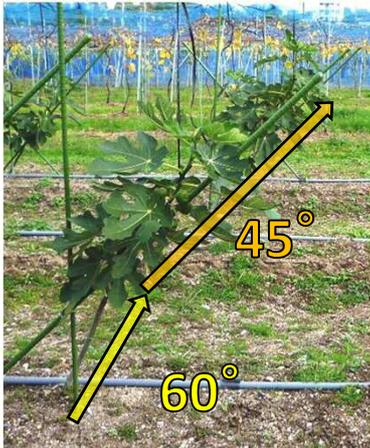
(5) 植えかえ

- ・発芽してロックウールキューブの底から根が出る頃。
- ・ほ場またはポットに植えかえる。

接ぎ木苗の管理

接ぎ木苗から、主枝となる長い新梢1本を養成する。

1 ほ場定植の場合



- ・苗木を斜めに植えて養成でき、主枝が水平誘引しやすい。

植え付け角度 60度

新梢の誘引角度 45度(先端部は立てる)

- ・新梢が7～8節程度に生育したら定植する。

2 ポット育苗の場合

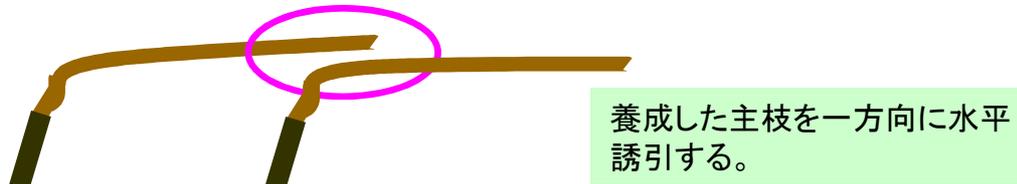


- ・小面積で集約的な管理ができる。
- ・新梢は支柱を設置し垂直に養成する。
- ・落葉後に、新梢の長さに合わせた株間で、斜めに定植する。

ポットの直径は30cm程度

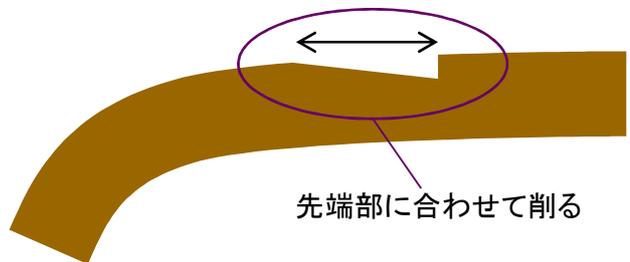
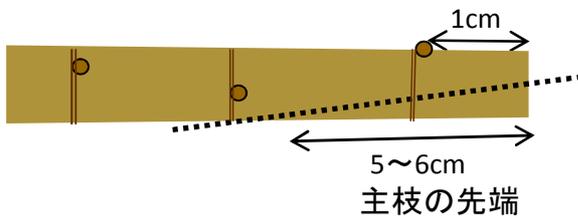
主枝の連結方法

4月上中旬(発芽直前)に実施する。



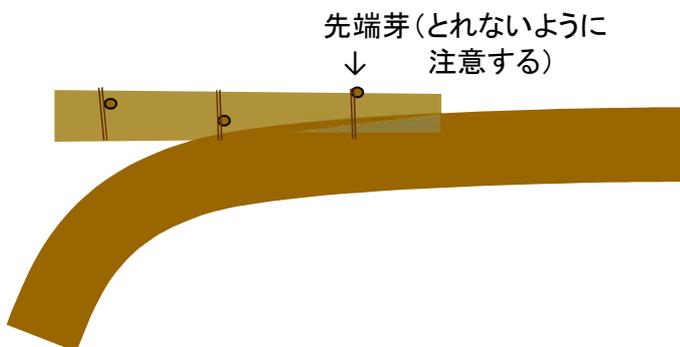
先端部

基部



- ・先端の芽は、結束用に先を約1cm残して枝を切除する。
- ・接合面は形成層が出るように削ぎ、水平面を5~6cmつくる。

- ・先端部と接ぐ部分は形成層が出るように削り取る。
- ・接合面を平面に整える。



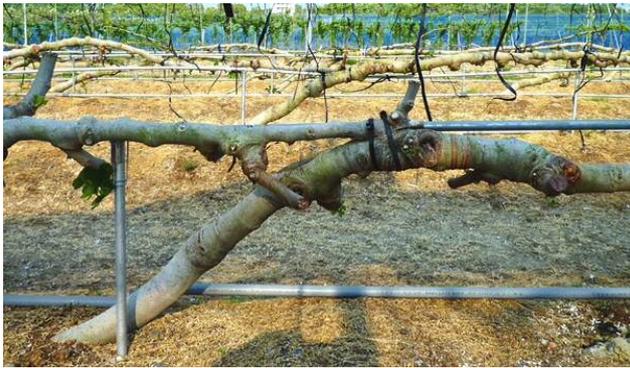
主枝連結直後

- ・両方の形成層が合うように水平面を合わせ、接ぎ木テープで覆う。
- ・接ぎ木部は結束バンドで2~3か所固定する。

連結後の管理と生育



主枝連結(○印)により樹体ジョイント仕立ての骨格が完成



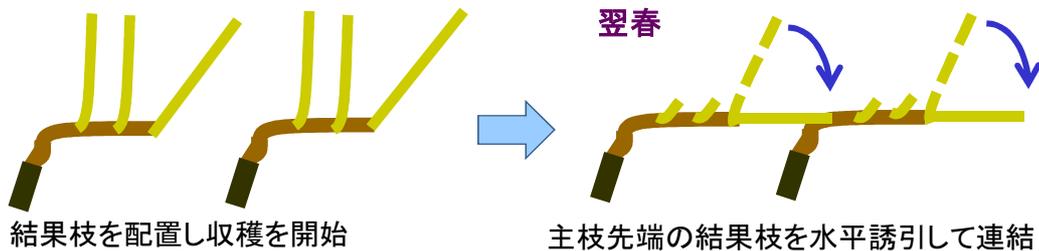
活着した連結部分

- ・結束バンドは枝の肥大に応じて調節し、連結部分が活着するまで固定する。
- ・カミキリムシ等の被害を受けやすいので、発生に応じて防除する。

結果枝の管理

主枝の両側に、40～50cm間隔で配置する。

<参考> 株間が広く、隣接樹と連結できない場合は、翌春に隣接樹と連結する。



編集・発行

愛知県農業総合試験場

〒480-1193 愛知県長久手市岩作三ヶ峯1-1

TEL 0561-62-0085 内線323 (企画普及部)

FAX 0561-63-0815 <http://www.pref.aichi.jp/nososi>

問い合わせ 園芸研究部落葉果樹研究室 TEL 0561-62-0085 内線523